

「育てノート」作成マニュアル

1. 作成の目的

「育てノート」は、養育するスタッフや関係者が、施設や里親家庭などで暮らす子どもやその家族などを対象にして、今まで作成してきた養育記録や生活記録だけではなく、その子どもの成育の過程での重要なエピソードやイベント、その子にとって大切な人・物・場所・思い出、その子らしさ、あるいは養育者の思いや願いなどのメッセージを盛り込んだ、養育者や子ども自身がその生い立ちを理解できる、つながりのあるライフヒストリーを綴るためのノート（記録）である。

したがって、このノートには、母親が妊娠した時や生まれた時からの家族の状況及びその時の気持ちや願い、その子どもにとって重要なエピソードやイベント及びそれに対する養育者と保護者・教師及び本人・友人などからのメッセージや、作品（写真、絵画、作文など）・プレゼント、施設や里親家庭あるいは学校などにおける暮らしや活動の様子、その子らしさ（強み、良さ、成績、評価など）などを記載するものである。

これにより、「育てノート」が社会的養護の中で養育者に引き継がれることにより、養育の連続性を保障するとともに養育の質の向上を図り、子ども一人ひとりのつながりのある育ちを保障することを目的とする。

2. 作成・管理

- (1) 養育者（担当職員、里親等であって、子どもの主たる養育者であり、「育てノート」に記入する者（複数可）。以下同じ。）が作成する。
- (2) 措置変更などで子どもの生活の場所が他の施設等に変った場合には、このノートを次の養育者に引き継ぐ。
- (3) 養育者（施設、里親等）は、他の記録と同様にノートの保管や電子媒体の管理に十分留意するとともに、正当な理由なく、このノートに記載されている子ども又はその家族の秘密を漏らしてはならない。
- (4) このノートは、原則としてこのノート自体を子どもやその保護者に提供することを想定して作成するものではないが、養育者が子どもと成長の振り返りを行う場合や「育ちアルバム」を作成する場合などにおいて、子どもの支援上必要な記録や元来子ども自身が持っていた情報や記録（学校の記録、写真など）について、提供することが適切な部分を抜き出して、子ども又は保護者に提供することができる。

3. 記入にあたっての留意事項（共通）

- (1) 重要なエピソードやイベント及びその写真などのメッセージやコメントは、その子どもらしさ、特に子どものプラス面についての評価や感想、養育者や保護者などの今後の期待や願い及びその時の感情などについて可能な限り綴ること。
- (2) 基本的に、施設等に入所（委託）した時点からの事実（一時情報）を養育者が記入する。間接的に得た過去の情報（二次情報）を記入する際は、情報源（原記録の名

称・記録者名等)と情報を得た日を必ず書き込む、もしくは資料を添付すること(母子健康手帳、児童相談所からの記録、学校の通知票などを参考とする)。

- (3) 記入年月日が必要と思われる項目には、最後に(〇年〇月〇日)と記入すること。
- (4) 記入者が複数の場合や変更した場合、または記入者以外の人からの情報を記入する場合は記入者名(情報者名)を最後に記入すること。
- (5) 子どもに告知していない(子どもが知らない)情報については、軽微な内容のものを除き、告知していない旨を記入すること。
- (6) 家族や本人及び関係者あるいは作品などの写真は、可能な限りデジタルカメラなどで撮影し、電子ファイルとして保存した後、ノートに撮影年月日がわかるように掲載すること。
- (7) 文章は、できる限り簡潔にわかりやすく記述すること。
- (8) 記入者によって観点にブレが生じないよう客観性を重視し、子どもの様子や思いを記入する際には、いつ、どのような状況で、どんな言葉を表したか、「」使用するなどして客観的事実を記入すること。また、養育者や関係者の思いを記入する際には主語(誰が)、どう思ったか、わかりやすく表すこと。
- (9) ノートに記載されている項目を埋めていくことが目的ではないので、項目によって話を聞く時期や場面には十分留意し、養育者からの投げかけに子どもが答えない場合は無理に聞き出そうとせず、答えなかったという事実を記録すること。

4. 記入要領

<養育者一覧>

- ・ 子どもを直接担当する養育者(育てノート記入者)の名前と職名(指導員、保育士、子どもとの関係など)を記入する。
- ・ 施設等において養育者が複数の場合はすべての養育者の名前等を記入するが、その場合は主たる養育者(=育てノート記入者)にアンダーラインを引く。
- ・ 子どもが家庭で生活しているときは保護者名を記入する。
- ・ 母子生活支援施設に入所している場合は、母及び担当職員(母子指導員など)の両方を記入する。
- ・ 備考欄には施設名、場所、担当となった日付その他特記すべきことを記入する。

<養育者から養育者へのメッセージ>

- ・ 養育者(育てノート記入者)が変更する場合に、次の養育者に向けたメッセージや養育上の留意点などを記入する。

<養育者から子どもへの告知>

- ・ 子どもに告知していない内容(軽微な内容のものを除く)について、その後告知を行っ

た場合に、告知した年月日、人（告知に立ち会った人）、理由と内容、告知したときの子どもの様子を記入する。

- ・既にノートに記入してある内容を告知する場合は、ノートのどこに記入されている内容について告知したのかがわかるよう、記載されている頁、項目を記入しておくとともに、3.（5）により告知していない旨が記入されている部分に取り消し線を引き、その横に告知年月日を記入する。
- ・同じ内容を告知する場合であっても、年齢や時機によって伝え方や内容の詳細が異なる（段階的に告知する必要がある）ときには、その都度記入していく。

<フェイスシート>

- ・入所時の情報を記入し、担任が変わったとき、担当福祉司の変更時は下の行に書き加えていく。
- ・家族構成とジェノグラムは、後から詳細が分かる場合や、離婚や再婚、出生等で変わることがあるため、変更のあった場合は次頁に書き直す。
- ・ジェノグラムの作り方は、別紙1（P20）「ジェノグラムの作り方」を参照する。

<子どもの発育・健康やライフイベントに関する記録>

- ・この記録は、子どもの年表のようなものであるので、項目ごとに各年齢のトピックスを簡潔にまとめる。
- ・発育状態・健康状態：身長、体重は毎年必ず記入する。その他、発育・健康の状態や、疾病やけがなどによる入院、特記すべき通院や服薬、特記すべき視力・聴力・歯の状態、第二次性徴等について記入する。また、予防接種についてもこの欄に記入する。
- ・ライフイベント：各年齢における大きなできごとについて簡潔に記入する（詳細は年齢（学年）毎の各項目に記入する）。
- ・居住環境：施設や里親家庭等の名称、住所、居住形態などを記入する。居住地を変更した場合は必ず記入する。
- ・養育環境：施設であれば寮、ユニット、グループホームやその単位の子ども・職員の人数などを記入する。里親家庭やファミリーホームであれば家庭（ホーム）内の構成などを記入する。養育環境に変化があった場合は必ず記入する。
- ・地域環境：地域の関係機関（保育所、学校、市町村、児相）との関わり、近隣とのつながりや、地域の様子などを記入する。

■ 胎児期

◇基本的事項

- ・ 保護者への確認が難しい場合は空白のままにし、特記事項等にその旨を記入する。
- ・ 保護者や他機関等から得た情報は、情報源と記入日を必ず記入する。
- ・ 子どもの健康状態、身長、体重などの発育状態、哺乳や離乳食などの栄養状態については、母子健康手帳の内容に基づいて記入する。ただし、母子健康手帳がない場合には、手帳の記載すべき内容について保護者などに確認して記入する。
- ・ 妊娠中の経過については、母子健康手帳の内容に基づいて記入する。ただし、母子健康手帳がない場合には、手帳の記載すべき内容について保護者などに確認して記入する。
- ・ 出生前の準備状況については、両親学級への参加、ベビー用品、住環境の改善などについて、年月日などを含めて具体的に記入する。写真などを掲載してもよい。
- ・ 施設入所以前の写真は、保護者に確認し、コピーや電子媒体でいただくことのできたものを添付する。

■ 乳児期

◇基本的事項

- ・ 保護者への確認が難しい場合は空白のままにし、特記事項等にその旨を記入する。
- ・ 保護者や他機関等から得た情報は、情報源と記入日を必ず記入する。
- ・ 子どもの健康状態、身長、体重などの発育状態、哺乳や離乳食などの栄養状態については、母子健康手帳の内容に基づいてフェイスシートの健康欄に記入する。ただし、母子健康手帳がない場合には、手帳の記載すべき内容について保護者などに確認し記入する。
- ・ 0ヵ月時の写真、及び手形・足形については、とった年月日が分かるように記入する。
- ・ 名付けについては、名付けの親が誰であるか分かるように記入する。書で書いた命名がある場合には、保存ファイルに納めておく。あるいは写真を撮って保存する。
- ・ 選択肢のある項目については、当てはまる欄にを入れる。
- ・ メッセージについては、保護者などから聞き取った内容を記入する。
- ・ 施設入所以前の写真は、保護者に確認し、コピーや電子媒体でいただくことのできたものを添付する。

◇記入項目と記入例

面会・外泊の様子

- ・ 面会制限の有無をチェックし、制限のある場合はその理由を記入する。
- ・ 家族の状況：入院中や収監中で面会等が制限されることもあるため、家族の状況を記入する。

- ・ 年間の面会・外泊・外出、通信（電話・手紙）等のやり取りを記入する。
- ・ エピソード欄には、特記すべきエピソードがあれば記入する。

<記入例>

	回数 (面会・外出・外泊・通信)	面会者・外出先等	エピソード
3 月	面会 3回 ・ 外出 2回 手紙 1回	実母・継父と面会外出 〇〇公園、西友 母方祖母から手紙	3/17 実母・継父との外出。買い物をして帰ってくる。ご機嫌でよく笑っていた。(実母より)

■ 幼児期

◇基本的事項

- ・ 保護者や他機関等から得た情報は、情報源と記入日を必ず記入する。
- ・ 成長に関する事項は、健診時や誕生日に近い時期に測定した値をフェースシートの健康欄に記入する。測定日も記入する。
- ・ その他の事項は、期間内に記入する。
- ・ ノートの作成にあたっては、項目を埋めることが目的ではなく、ノートが子どもの育てに活かされるように、内容を吟味し、事実を記入する。
- ・ 子どもの作品などの資料は、別紙や写真等で添付する。

◇記入項目と記入例

- ・ 選択肢が挙げられている項目については、当てはまる選択肢に を記入する。また、特記事項がある場合は記入する。
- ・ 年齢ごとに項目の変わる質問もあるが、以下を参考にして記入する。
- ・ どの項目にも当てはまらないが、気になることや重要と思われる情報は、特記事項に記入する。

写真とメッセージ

- ・ 誕生日の写真や、思い出のシーンなどの写真を添付し、養育者からのメッセージを添える。メッセージには、記入日と記入者名を書き込む。

食事

- ・ 食事の量・食ベムラ：当てはまる項目に を記入する。
- ・ 食事時の雰囲気：食事をするときの雰囲気や様子を記入する。

<記入例> 大好きなフルーツは、満面の笑みでおかわりして食べます（写真：いちごが大好きな〇〇ちゃん）。嫌いな物はガンとして食べないこともあり、食

べさせるのに苦労することが多いです。

- ・ アレルギー：当てはまる項目に☑を入れ、有りの場合は、アレルギーを引き起こす食材などを記入する。
- ・ 工夫していること：食事に関することで、養育者が工夫していることを記入する。

<記入例>嫌いな野菜は小さく刻んだり、味付けを工夫したりして食べやすくしています。家にいたころ、家族とあまり一緒に食事をする機会がなかったようなので、楽しい会話とともに食が進むように雰囲気作りを工夫しています。

睡眠

- ・ 睡眠時間：一日の平均睡眠時間を記入する。
- ・ 夜泣き・寝付き：当てはまる欄に☑を入れる。
- ・ 対応するときの養育者の気持ち：寝かしつけなどの対応で養育者が感じている気持ちを記入する。

<記入例>寝ている顔を見ていると、とてもかわいらしく感じました。
夜泣きをしてなかなか泣きやんでくれないと、どうしたらいいのかわからなくなり、不安に感じたりイライラしてしまうこともありました。
他の子どもと一緒に寝かしつけていると、待たせてしまうこともあり、申し訳ない気持ちになることがありました。

排泄

- ・ 各項目の当てはまる欄に☑を入れる。
- ・ 排泄の自立：(3歳～) おむつがはずれた、おねしょがなくなった等、排泄の自立の様子を記入する。

遊び

- ・ 好きな遊び：遊びの中で好んでする遊びを記入する。
- ・ 遊び場：(2歳～) 公園や庭、友達の家などよく遊ぶ場所を記入する。
- ・ 遊び友達：(2歳～) よく遊ぶお友達を記入する。
- ・ 好きなおもちゃ・本・TV：具体的な内容を記入する。
- ・ 遊び方・遊び相手：(2歳～) 当てはまる項目に☑を入れる。
- ・ 外遊びの様子：(2歳～) ボール遊びや、砂遊びなど身体を動かす遊びの様子を記入する。走る、ジャンプするなどの運動の様子も記入する。

言葉

- ・ 各項目の当てはまる欄に☑を入れる。
- ・ 単語・2語文・3語文が話せるようになった場合は、具体的な言葉を記入する。

- ・ 発語の様子：(4歳～) 3歳までの言葉の項目を参考にしながら発語の様子を記入する。また、幼児語などが残っていたり、発音など特徴的なことも合わせて記入する。
- ・ 興味・関心：(5歳～) 動物の名前、アニメのキャラクター、色、数字など興味や関心を抱き始めたことを記入する。
- ・ あいさつ・お礼：(5歳～) あいさつやお礼などがどの程度言えるようになって来たかを記入する。
- ・ 読み・書き：(6歳) ひらがなやカタカナなどの読み書きがどの程度できるかについて記入する。
- ・ 自由記述の欄には、言語発達や発音の様子や課題等を記入する。

模倣 (2歳のみ)

- ・ 養育者や友達の真似ごと：真似をするようになったことを記入する。

時間 (6歳)

- ・ 時間・時期の理解：起きる時間、おやつの時間、ご飯の時間、寝る時間などの大まかな時間の理解、朝・昼・晩や季節などの時期の理解がどの程度できるかについて記入する。
- ・ 一日の流れの理解：朝起きてから夜寝るまでの流れの理解がどの程度できるかについて記入する。

約束 (3歳～)

- ・ ルール、約束は守れる？：養育者との約束、生活のルールなどがどの程度守れるかを記入する。
- ・ ルールを守って遊べる？：(5歳～) お友達と遊ぶ時に、順番を待ったり、借りた物を返したりなど、どの程度ルールを守って遊ぶことが出来るかについて記入する。

区別 (3歳～)

- ・ 自他の物の区別：お友達の物と自分の物の区別がどの程度ついているかを記入する。

感情表現

- ・ 子どもの年齢が小さい場合は、養育者から見た子どもの様子を記入する。
- ・ 楽しかったことは？：楽しかった出来事とそのときの嬉しさの表現の様子を記入する。
- ・ 怒っちゃったことは？：怒った時の出来事とそのときの怒りの表現の様子を記入する。
- ・ 悲しかったことは？：(2歳～)
- ・ 恥ずかしかったことは？：(5歳～)

自立心

- ・ 自己主張（反抗・イヤイヤなど）：自分でやりたがる場面、イヤイヤをする場面などを記入し、どんなことをしたがるか、どんな様子かを記入する。
- ・ 自分でできるようになったこと：（2歳～）
この1年で自分でできるようになったことを記入する。

行動

- ・ 最近よくする行動のエピソードを記入する。できるようになったことや、気になる行動などを記入する。

お手伝い

（2歳～）

- ・ 最近するようになったお手伝いの内容や様子を記入する。

大切な人・大好きな人

- ・ 子どもが大好きな人や大切な人の名前、関係、エピソードなどを記入する。

大切にしている物・場所

- ・ 子どもが大切にしている物や、好きな場所を記入する。

一緒に生活している人

- ・ 一緒に生活している人について記入する。
- ・ ニックネーム等による記載も可。

特記事項

- ・ 養育者自身の養育や本児について、一年間の振り返りをする。また、これまでの項目で記入できなかったことや気になることなどを記入する。
- ・ この1年間の中で思い出に残るようなエピソード、イベントなどを記入し、その写真を添付する。
- ・ お別れのエピソード：お友達や、家族、担当の養育者とのお別れのエピソードや写真を添付する。

はじめてノート

- ・ この1年ではじめて出来たことを記録する。できたときの年齢（月齢）、メッセージを記入し、写真を添付する。
- ・ 記入欄が足りないときは、コピーして記入する。

- ・ はじめてノートに記録する項目例

指差し スプーン・フォーク・お箸の使用 着替え おしっこ・うんち
ダンス(模倣) 水遊び・プール 砂遊び すべり台 ブランコ 発語 等

保育所・幼稚園などの利用

- ・ 利用の有無：保育所・幼稚園・託児所などの利用の有無に☑を入れ、利用の場合は利用期間を記入する。以下の項目は、利用の場合のみ記入する。
- ・ 養育者から見た担任の先生のキャラクター：明るい先生、いつも親身になってくれる先生など、養育者から見た先生のキャラクターを記入する。
- ・ 子どもから見た担任の先生のイメージ・印象：子どもの話などから、「優しい先生」「背が高い」「面白い」など、子どもが担任の先生に抱いている印象やイメージを記入する。
- ・ 先生からのメッセージ：養育者が担任の先生と話す中で、先生が話してくれたことや、連絡帳に書かれた内容などから、メッセージとその日付を記入する。
- ・ 登園の様子：当てはまる項目に☑を入れ、いやいや通っていた場合は、その様子などを記入する。
- ・ 園での遊び：室内や室外での遊びで、好きな遊び・よくする遊び、エピソードなどを記入する。また、遊びの様子の写真を添付する。
- ・ 友人関係：仲良しの子や喧嘩してしまう子（2歳～）などを記入する。
- ・ 行事への参加の様子・参観日の様子：（2歳～）発表会や運動会などの行事への参加の様子を記入し、写真を添付する。
- ・ 制作物：作品などを記入し、写真を添付する。また絵など添付できるものは、ファイルに保管する。

面会・外泊の様子

- ・ 面会制限の有無をチェックし、制限のある場合はその理由を記入する。
- ・ 家族の状況：入院中や収監中で面会等が制限されることもあるため、家族の状況を記入する。
- ・ 年間の面会・外泊・外出、通信（電話・手紙）等のやり取りを記入する。
- ・ エピソード欄には、特記すべきエピソードがあれば記入する。

<記入例>

	回数 (面会・外出・外泊・通信)	面会者・外出先等	エピソード
3月	面会 3回 ・ 外出 2回 手紙 1回	実母・継父と面会外出 〇〇公園、映画館 母方祖母から手紙	3/17 実母・継父との外出で映画館でポケモンを観て帰って来た。別れ際に大泣きをする。落ち着くまで30分ほどかかった。

■ 学童期

小学1～6年生

◇ 基本的事項

- ・ 保護者への確認が難しい場合は空白のままにし、特記事項等にその旨を記入する。
- ・ 保護者や他機関等から得た情報は、情報源と記入日を必ず記入する
- ・ 各学年が終了するまでに、各施設等で定めた内容に添って、養育者が記入する。例えば、誕生日や学期末、学年末など、養育者が子どもとの生活の中での機会を使って作成する。
- ・ ノートの作成にあたっては、項目を埋めることが目的ではなく、ノートが子どもの育てに活かされるように、内容を吟味し、事実を記入する。
- ・ 記入するにあたって、「健康の記録」、「学校通知票」等の内容をもとに記入し、その内容についての資料は、別紙用紙等で添付する。
- ・ 子どもの作品などの資料は、別紙や写真等で添付する。
- ・ 養育者と子どもの信頼関係のもとに、子どもが打ち明けた内容について記録する場合には、子どものプライバシーの確保に留意する。

◇ 記入項目と記入例

○ 冒頭の写真

- ・ 各学年での思い出になる写真（小学1年生の入学式や遠足などの行事、施設等での写真など）を掲載する。その時の養育者の思いやメッセージ、養育者の名前とその年月日を記入する。

発達の特徴

- ・ 各項目について、子どもの姿が浮き出るような表現で内容を記入する。
- ・ 感情表現：子どもの表現として、嬉しさ、怒り、嫉妬、恥ずかしさ、いたわり、愛情、恐怖などについて、その内容と子どもの様子を記入する。
- ・ 会話：口数の多さ、コミュニケーションの状況などについて記入する。
- ・ 言葉の理解：相手との会話での言語理解や意思疎通の状況などを記入する。
- ・ 自己主張：自己の感情や意見の表現の状況等について記入する。自分でやりたがる場面、嫌がる場面とその時の様子を記入する。
- ・ 自己制御：感情のコントロールの状況等について記入する。
- ・ 興味、関心、好奇心：特記する事柄、自ら工夫して行っている事柄を記入する。
- ・ 読み・書き：読書や書写への関心など、勤勉性、生産性をもたらした内容とその状況を記入する。
- ・ 特記事項：新たな精神医学的診断や所見について、その内容を記入する。

生活の状況

- ・ 生活環境：施設等の状況、居室と同居者（他の子ども）の状況について記入する。
- ・ 仲間：施設等での同居者や仲良しグループの名前を記入する。
- ・ 睡眠：起床や就寝の状況、睡眠（平均睡眠時間、眠りの深さなど）の状況を記入する。
- ・ 通学状況：登校や下校時の状況と子どもの表情などを記入する。
- ・ 排泄：規則正しい排便、排泄が行われているかなどの状況を記入する。
- ・ 身だしなみ：清潔さ、身辺整理の様子、身だしなみなどの生活習慣の状況を記入する。
- ・ 時間管理：生活の予定や約束の時間が守られているかなどを記入する。
- ・ 挨拶：職員や同居者などとの挨拶の状況を記入する。
- ・ 食事の内容・様子：食事への興味や関心、食事の準備や後始末などの手伝いの状況を記入する。食事の時の食べ方と要する時間、偏食の状況とその対応の様子、箸の使い方などの食事場面での状況を記入する。
- ・ 食事の量：年齢に応じた食事の量の状態とムラがあるかなどを記入する。
- ・ 好きなもの・嫌いなもの：好きな食べもの、嫌いな食べものを記入する。
- ・ アレルギーなど：食物アレルギーとその対応状況などを記入する。
- ・ 運動：生活場面で、体を使った動作や継続的な運動の内容とその様子について記入する。動作の様子、巧みさ、器用さ、バランス感覚についてのエピソードを記入する。
- ・ 好きな遊び：興味のある遊びやその内容を記入する。
- ・ 遊び友だち：生活場面で、よく遊ぶ友だちの名前を記入する。
- ・ ひとり遊びの様子：ひとりで興味を持って遊んでいる内容と状況を記入する。
- ・ 集団遊びの様子：同居者との遊びの内容とその様子について記入する。
- ・ 約束・ルール：生活場面で養育者や同居者との約束やルールについて、自ら守るように気を遣ってできていたかなど、エピソードを交えて記入する。
- ・ 家族との関係：家族との関係で、子どもが思っていること、家族が思っていることを記入する。
- ・ 養育者（職員）との関係：担当者名、養育者からの日常的な会話や遊びの状況と子どもの反応、養育者の生活支援の関わりへの子どもの反応、養育担当者以外の職員との関係、養育者との良好又は不調な関係のエピソードなどについて記入する。
- ・ 仲間との関係：特に親しい関係にある仲間（同居者）との日常的な会話や遊びの状況と子どもの反応、仲間との良好な関係のエピソードについて記入する。
- ・ 好きなこと：趣味や特技など、自由時間などで同居者などとの関わりで、興味を持って楽しんでいることを記入する。
- ・ 大切にしているもの：宝物にしているもの、書物や自分で作ったもの、好きな場所、保護者等からの手紙や写真などで大切にしているもの、ペットなどについて記入する。

- ・ 施設等や部屋の写真を掲載する。掲載日と場所を（ ）内に記入する。
- ・ 運動や遊びの状況についての写真を掲載する。掲載日と場所を（ ）内に記入する。
- ・ 家族との面会、外出、外泊の時の写真を掲載する。掲載日と場所を（ ）内に記入する。
- ・ 大切な物の写真を掲載する。子どもが他人に見せたくない物もあるため、子どもの意志を尊重したものを掲載する。内容について（ ）内に記入する。

家族・地域の状況

- ・ 家族の成員の変化やその状況、家族や親戚の状況と子どもへの思い、一時帰省等（家庭での生活と家族旅行などのイベント）の状況、子どもの地元の変化や地域近隣住人の状況と知り得た地域の状況についての内容を記入する。
- ・ 家族や地域の状況についての写真も掲載し、内容と掲載日を（ ）内に記入する。

学校生活の状況

- ・ 通知票等の添付により内容が重複する場合は、記入しない。
- ・ 授業の成績：成績や評価された内容について、特筆事項を記入する。
- ・ 好きな教科・苦手な教科：その教科名とその理由を記入する。
- ・ 担任の先生：先生の名前と子どもが思っている全体像を記入する。
- ・ 通知票から：各学期の成績表に記載される担任からのコメントを記入する。
- ・ 教員との関係：担任や他の教員との関わり、信頼関係の程度のエピソードを記入する。
- ・ 友だち：学校での親しい友だちの名前と学年を記入する。
- ・ 友だち関係：友だちとの交友状況とエピソードを記入する。
- ・ 放課後の過ごし方：校外での親しい友だちの名前と学年、付き合いの状況を記入する。
- ・ クラブ活動：入部したクラブとその期間、大会などのイベントの状況や成績を記入する。
- ・ 生徒会活動：生徒会活動の役割と活動内容、エピソードを記入する。
- ・ 行事やイベントでのエピソード：心に残る思い出の行事とその内容、子どもの様子などを記入する。
- ・ 表彰されたこと：学校活動、係活動、クラブ活動などで表彰された内容を記入する。
- ・ 好きな遊び：校内での休み時間や自由時間などでの遊びの内容を記入する。
- ・ クラブ活動や生徒会活動等の写真を掲載する。
- ・ メッセージ・子どもの様子など：担当の先生からの聞き取りや子どもが話していた内容、子どもの様子などを記入する。（ ）の中に、掲載日と内容を記入する。
- ・ 行事・イベントの時の写真を掲載する。
- ・ 表彰状や授賞式の様子を掲載する。養育者等からのメッセージ・子どもの様子などを記入する。

その他の活動

- ・ 活動の状況：校外でのクラブ活動などの名称と内容、イベントの内容と成績、習い事の種類と期間とその様子を記入する。
- ・ 友だち：近隣での親しくしている友だちの名前と学年を記入する。
- ・ 友だち関係：近隣の友だちとの関わりと様子とそのエピソードを記入する。
- ・ 校外の活動とその内容、子どもの様子などを記入する。その時の写真を掲載する。
- ・ その他の特記事項：ボランティア活動などの内容と様子、その期間などを記入する。

初めてできたこと

- ・ 初めてやったことやできるようになったこと、自転車や一輪車などに乗れることになったこと、縄跳びなど飛べるようになったことや級など、自分で一生懸命挑戦したことなどの内容と写真を掲載する。養育者、学校関係者からのメッセージ・子どもの様子などを記入する。

大切な人（キーパーソン）

- ・ 子どもにとっての大切な人、その人に対する子どもの思い・メッセージなどについて、養育者が子どもとの日常的な会話や面接などから聞き取った内容を記入する。

忘れられないできごと

- ・ 交友関係、生活上のこと、家族とのことなどについて、子ども自身が思っていることや意見、養育者の思いや願いを記入する。
- ・ 子どもの意見については、養育者の解釈で記入するのではなく、子どもの態度や言動・表情について客観的に記入する。
- ・ 特に子どもの発言は、「 」をつけて表現通りに記入する。
- ・ 養育者の思い・願いは、子どもの意見との区別がわかるように、誰（養育者）がそう思っているか、主語を明らかにして記入する。
- ・ 良いできごと、気がかりなできごと（**小学4～6年生のみ記入**）：1年を振り返って、子どもの良いできごとや気がかりな（良くない・望ましくない）できごとを記入する。

子どもの考え・思い・希望

- ・ 新しくやってみたいこと、将来の希望や夢、大切なこと、人、もの、場所など、家族（親、きょうだい）のことなどについて、養育者が子どもとの日常的な会話や面接などから聞き取った内容を記入する。
- ・ 今までの自分とこれからの自分（**小学4～6年生のみ記入**）：自らの思いや考えていることについて、言語化されたものを記入する。

養育者による1年間の振り返り

- ・ 養育者が1年間の自身の養育を振り返るための項目である。子どもとの生活の中で、子どもの成長や発見などについて感じていることや思いについて記入する。感想や留意した点、反省点、展望など、さらなる養育の向上を繋げるための振り返りとなる事柄を記入する。

エピソード

- ・ 「成長の状況」、「発達の特徴」、「生活の状況」、「学校生活の状況」の4つの項目について、養育者が子どもの一年間を通して特に印象に残ったできごとや様子について記入する。

面会・外出・外泊の様子

- ・ 面会制限：面会制限の有無をチェックし、制限がある場合はその理由を記入する。
- ・ 家族の状況：入院中や収監中で面会が制限されることもあるため、家族の状況を記入する。
- ・ 年間の面会・外泊・外出、通信（電話・手紙）等のやりとりを記入する。
- ・ 内容・エピソード欄には、特記すべきエピソードなどがあれば記入する。

<記入例>

	回数 (面会・外出・外泊・通信)	面会者・外出先等	エピソード
3月	面会 3回 ・ 外出 2回 手紙 1回	実母・継父と面会外出 〇〇公園、映画館 母方祖母から手紙	3/17実母・継父との外出で映画を観て来た。外出中、初めて会った継父とじゃれ合い、手を繋いで喜んでいただけのこと（実母より）

■ 思春期

◇ 基本的事項

- ・ 保護者や他機関等から得た情報は、情報源と記入日を必ず記入する。
- ・ できる限り、年に1回以上養育者が記入する。
- ・ 子どもとともに記入する別冊の項目については、誕生日や学期末など子どもと養育者が自然にその時の思いや考えを話せる機会に作成する。
- ・ エピソードやメッセージ、その他必要な項目の記入に当たっては、原則記入年月日を入れる。
- ・ このノートを作成にあたっては、項目を埋めることが目的ではなく、ノートが子どもの

育てに活かされることが重要である。したがって、子どもが回答を拒む場合には、無理に聞き出そうとせず、回答を拒んだという事実を記入する。

- ・ 特に思春期は精神的・情緒的に不安定な時期であり、将来へのイメージや、自己への評価が一定しないことが考えられるため、養育者との関係づくりを重ねることが必要である。
- ・ 養育者と子どもの信頼関係のもとに子どもが打ち明けた内容（親への思い、性の問題、恋人のことなど）について記録をする場合には、子どもへの十分な確認が必要であり、子どものプライバシーの確保に留意する。

◇ 記入項目と記入例

○ 冒頭の写真

- ・ 入学式や修学旅行、施設での写真など、その時期の養育者にとって思い出に残る写真を掲載し、合わせて養育者の思いやメッセージを記入する。

発達の特徴

- ・ 行動・性格（心理・情緒）・知的機能や対人コミュニケーション等について、前年と比べて特記すべき内容について記入する。
- ・ 子どもの成長したところなど良くなった変化は勿論、新たに出てきた問題（暴力、拒食、ひきこもり、自傷、非行など）についても記入する。
- ・ 精神医学的な診断がある場合には、「その他、特記すべき事項」に受診経過や診断の内容、子どもの状況の変化について記入する。さらに詳細な内容の記入が必要な場合は、後に「特記事項」で記入する。
- ・ エピソード・資料があれば記入・添付する。

生活の状況

- ・ 生活環境：施設や里親家庭の住居等の状況（施設や部屋の写真を添付してもよい）や状態、同居者（他の子ども）の状況等について記入する。
- ・ 生活のリズム：起床や就寝の状況、睡眠（眠りの深さなど）、通学（登校や下校時の子どもの表情など）、就労等の状況などを記入する。
- ・ 生活習慣：身だしなみ、清潔さ、身辺整理の状況、食事マナー、時間を考えた生活ができてきているか、職員や同居者との挨拶など生活態度・習慣について記入する。
- ・ 家族との関係：親・兄弟等との関係を簡潔に記入する。親（家族）に対する子どもの気持ちについては後に「親・家族に対する子どもの気持ち」で記入する。
- ・ 養育者（職員）との関係：養育者（担当者、子どもが慕っている者）の関わりに対する子どもの反応、養育者以外の職員との関係、養育者との良好又は不調な関係のエピソード

ドなどについて記入する。

- ・ 同居者（他の子ども）との関係：特に親しい関係にある同居者名と年齢、同居者との日常的な会話や遊びの状況と子どもの反応、同居者との良好な関係のエピソードなどについて記入する。
- ・ 好きなこと：趣味や特技など、興味を持って楽しんでいることを記入する。
- ・ 大切にしているもの：宝物にしているもの、書物や自分で作ったもの、保護者等からの手紙や写真などで大切にしているもの、ペットなどについて記入する。
- ・ 施設等での写真（行事、誕生日、お正月などの写真）を掲載し、養育者からのメッセージを記入する。

親・家族に対する子どもの気持ち

- ・ 子どもが親や家族をどう捉え、どう考えているのか。面接を行った場合はその時の様子を、行っていない場合は養育者が日頃の生活の中でのエピソード（面会や通信、会話の中から）や会話内容等を記入する。

家族・地域の状況

- ・ 家族の成員の変化やその状況、家族や親戚の状況と子どもへの思い、一時帰省等（家庭での生活と家族旅行などのイベント）の状況、子どもの地元の変化や地域近隣住人の状況と知り得た地域の状況についての内容を記入する。家族や地域の状況についての資料（写真など）があれば添付する。

学校生活の状況

- ・ この項目は通学（進学）している子どもについてのみ記入する。
- ・ 学業成績：成績や評価された内容について特筆事項を記入する。成績表（通知票）を添付した場合は記入の必要なし。
- ・ 好きな教科、苦手な教科：教科名とその理由を記入する。
- ・ 担任の先生：担任の先生の名前。
- ・ 成績表から：各学期の成績表に記載されている担任からのコメントを記入する。成績表（通知票）を添付した場合は記入の必要なし。
- ・ 教員との関係：担任や他の教員との関わり、信頼関係、エピソードを記入する。
- ・ 交友関係：親しい友人の名前と学年、友人との関係とエピソードを記入する。
- ・ 放課後の過ごし方：校外での親しい友人の名前と学年、付き合いの状況を記入する。
- ・ クラブ活動・生徒会活動：入部したクラブとその期間、大会などのイベントの状況や成績、生徒会活動の役割と活動内容、エピソード、写真を掲載する。担当の先生からのメッセージも聞き取り、記入する。
- ・ 学校生活の写真：行事（例：入学式、運動会、修学旅行、卒業式など）とその内容、エ

ピソード、その時の子どもの様子と写真を掲載する。担当の先生等からのメッセージなど聞き取ることができれば記入する。

就労の状況 (高校生(中卒)のみ記入)

- ・ この項目は就職している子どもや、アルバイトを行っている子どもについてのみ記入する。
- ・ 就労している事業所等の名称、住所、業種、及び子どもが行っている仕事の内容、雇用主の名前等について記入する。
- ・ 仕事の成績、評価等：仕事の成績や、態度や積極性などについての上司からの評価を記入する。
- ・ 職場内の交友関係：上司との関係や同僚との関係について記入する。
- ・ 勤務時間、給与、待遇等：勤務状況や待遇について具体的に記入する。
- ・ 仕事後、休日の過ごし方：仕事以外の時間の過ごし方、趣味、交友関係等について記入する。
- ・ 将来の展望、目標、その他：子どもの進路希望、目標等について子どもから聞き取り、記入する。
- ・ 就労中のエピソード、子どもの思いの他、養育者や職場の上司等からのエピソードを記入する。

その他の活動

- ・ 活動の状況：校外でのクラブ活動、塾、習いごとなどの内容や成績、様子等を記入する。
- ・ 交友関係：上記の活動や近隣の友人とその関わり、様子、エピソードなどを記入する。子どもの個性や自己理解などについてわかる内容があれば記入する。

特記事項

- ・ 養育者から見て特記すべきエピソード、子どもの変化、子どもの周囲の変化や大きなできごとがあれば記入する。
- ・ **発達の特徴** や **生活の状況** において、さらに具体的に特記すべきエピソードや変化、精神医学的治療経過、問題行動の経過などがあれば記入する。

1年間のできごと

- ・ 交友関係、生活上のこと、家族とのことなどについて、養育者（または子ども自身）からみた大切なできごとと、その時の子どもの様子、養育者の思いや願いを記入する。子どもの意見や思いについては養育者の解釈で記入するのではなく、子どもの態度や言動・表情を客観的に記入する。
- ・ 気がかりなできごとには、良くない（望ましくない）できごとや、養育者から見て不安

- （心配）なできごとなどを記入する。
- ・ 養育者と子どもの信頼関係のもとに子どもが打ち明けた内容（親への思い、性の問題、恋人のことなど）について記録をする場合には、子どものプライバシーの確保に留意する。
- ・ 特に子どもの発言は「 」をつけて表現通りに記入する。
- ・ 養育者の思い・願いは、子どもの意見との区別がわかるように誰（養育者）がそう思っているか、主語を明らかにして記入する。

養育者による1年間の振り返り

- ・ 養育者が1年間の自身の養育を振り返るための項目である。感想や留意した点、反省点、展望など、さらなる養育の向上に繋げるための振り返りとなる事柄を記入する。

面会・外出・外泊の様子

- ・ 面会制限：面会制限の有無をチェックし、制限がある場合はその理由を記入する。
- ・ 家族の状況：入院中や収監中で面会等が制限されることもあるため、家族の状況を記入する。
- ・ 年間の面会・外泊・外出、通信（電話・手紙）等のやりとりを記入する。
- ・ 内容・エピソード欄には、特記すべきエピソードなどがあれば記入する。

<記入例>

	回数 (面会・外出・外泊・通信)	面会者・外出先等	エピソード
3 月	面会3回 ・ 外出2回 手紙1回	実母・継父と面会外出 〇〇公園、映画館 母方祖母から手紙	3/17 実母・継父との外出で映画を観て帰って来た。外出中、継父とは殆ど会話はなかったとのこと（実母より）。

対人関係の記録

- ・ （養育者から見た）子どもにとって大切な関係となっている人について記入する。
- ・ 子ども自身が大切と思っている人については、別冊の **対人関係マップ** および、**大切な人（キーパーソン）** に子どもと一緒に記入する。
- ・ 単に関係機関の職員に限らず、友人、クラブの先輩、恋人、きょうだいなど、あらゆる方面においての人を対象とする。
- ・ 養育者と子どもの信頼関係のもとに子どもが打ち明けた内容（親への思い、性の問題、恋人のことなど）について記録をする場合には、子どものプライバシーの確保に留意する。

ライフイベント・変化の記録

- ・ 各学年毎の、子どもにとって大切なできごとや大きな変化（良い事も悪い事も）を経緯

で捉えられるよう、簡潔に記入するとともに、その時の子どもの様子を客観的に記入する。

自分自身と向き合う記録

- ・ 自己評価（自己肯定感や自尊心など）の変化が簡潔にわかるように記入する。
- ・ 養育者と子どもの信頼関係のもとに子どもが打ち明けた内容（親への思い、性の問題、恋人のことなど）について記録をする場合には、子どものプライバシーの確保に留意する。

○ 別冊

以下については、できる限り年（各学年）に 1 回以上、子どもが養育者と一緒に記入する。その際に、子どもと養育者が記入しやすいよう、別冊の様式だけをもって話し合いを行うことが望ましい。

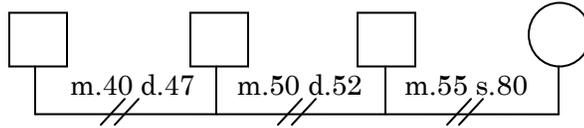
対人関係マップ

- ・ 子どもにとって大切な関係の人について、子どもから聞き取りながら記入する。
- ・ 生活場面以外（校内、校外）での対人関係について、その名前と関係性を入れながら子どもとともに書きとどめておく。
- ・ 対人関係マップは、別紙 2（P23）「対人関係マップの作り方」を参照する。

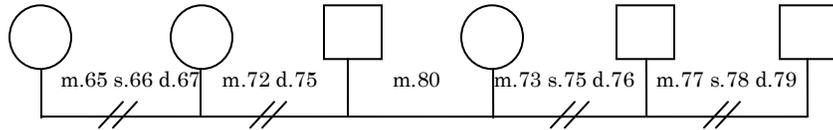
大切な人（キーパーソン）

- ・ 子どもにとっての大切な人、その人に対する子どもの思い・メッセージなどについて、養育者が子どもから話を聞き取り、記入内容を子どもと確認して記入する。
- ・ 養育者と子どもの信頼関係のもとに子どもが打ち明けてくれた内容（親への思い、性の問題、恋人のことなど）について記録をする場合には、子どもの十分な確認が必要であり、子どものプライバシーの確保に留意する。

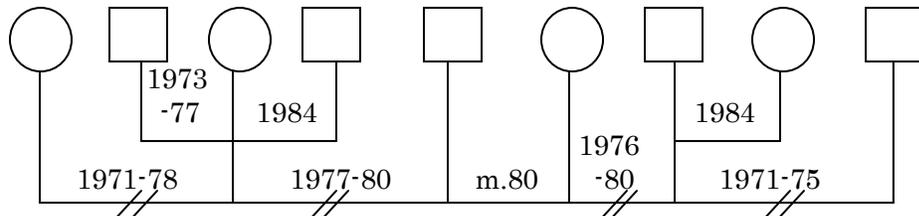
(4) 何度も結婚歴のある妻



(5) 共に結婚経験のある夫婦



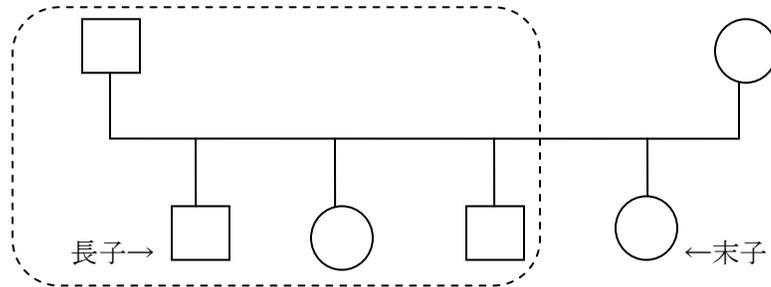
(6) 過去の結婚相手もそれぞれ再婚している夫婦



(7) 内縁関係



(8) 同胞（きょうだい）の出生順位



(9) 同居家族：点線で囲む

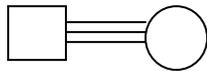
* 家族に関する情報を記載する

- ① 年齢
- ② 職業
- ③ 出身地
- ④ 結婚のいきさつ：見合い・恋愛・できちゃった婚 など
- ⑤ 別居の理由：夫の暴力・妻の浪費 など

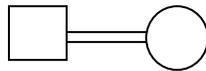
- ⑥離婚：離婚に至ったいきさつ・協議離婚・調停離婚（主な争点・申立人・親権をめぐっての対立かどうか） など
- ⑦転居
- ⑧収入・学歴：ローンの返済 など
- ⑨非行・犯罪歴：ケースによっては警察への前科紹介が重要である
- ⑩命日・死亡原因：事故死・自殺・病死（病名） など
- ⑪子の名付け：誰が名付け親なのか、命名に込められた期待などが重要である
- ⑫疾病の有無

3. 家族の関係性

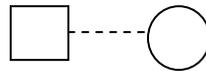
(1) 融合



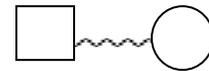
(2) 親密



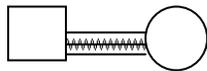
(3) 疎遠



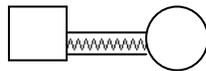
(4) 敵対



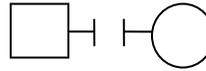
(5) 融合し敵対



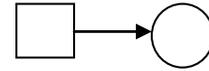
(6) 親密で敵対



(7) 遮断



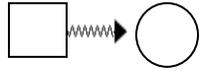
(8) 強い関心／干渉



(9) 性的虐待



(10) 身体的虐待



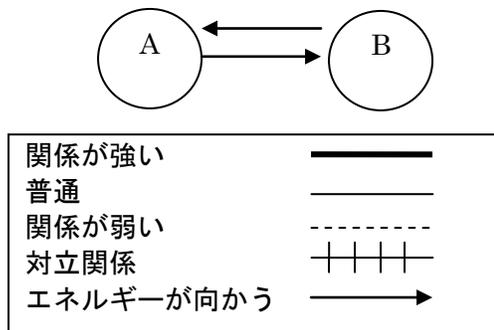
(別紙2)

対人関係マップの作り方

【参考】児童自立支援計画研究会編「子ども・家族への支援計画を立てるために」

- ・○(円)を子ども(本人)として、中心におく。○の大きさはこだわらない。
- ・その周りに、子どもに影響を与えている人について記入していく。
- ・子どもにとって、あまり影響のないものは記入しない。
- ・子どもが話す人が、養育者が把握している人と異なるときには、子どもの話を優先して記入する。

例1 [子ども(本人)をA、影響を与えている人をBとする]



- ・○において、どのように→が引かれるかについては、その関係が密かどうかによる。
- ・関係が強いほど線を太くする。
- ・対人関係マップは子どもを中心に、それぞれの人との関係性を理解するのが目的であり、定期的に作成することで対人関係の変化を把握することもできる。例1のようにお互いの矢印を引くことで、子どもとBは、お互いに意思疎通しているということを表す。

例2 対人マップ例

